

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12555

研究課題名（和文）ワーケーションを推進するための地域観光資源の活用に関する研究

研究課題名（英文）Research on the utilization of local tourism resources to promote workcation

研究代表者

松下 慶太（Matsushita, Keita）

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：80422913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：地方にとって、ワーケーションへの期待で最も大きいのは、地域の社会課題に取り組むことである。地域の社会課題を地域の行政や住民が「関わりしる」として捉えることで、社会「課題」ではなく「資源」として転換できる。長崎県五島市、鳥取県鳥取市などは、こうした転換を図るための有益な先事例として示された。一方で、解消されてしまう社会課題であるならば継続的なコミットにどのように結びつけるか、社会課題への深いコミットを求めてしまうと専門性が求められワーケーションの裾野が広がらないという課題がある。今後は多様化するワーケーション実践者それぞれの滞在スタイルを尊重すること、デジタルノマドへの対応が求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、観光学でこれまで視野に入っていなかった働き方に関する経営学や学習論などの領域とツーリズムの結びつきを指摘し、広がっていく方向性を示したことにある。また、比較的新しいトピックであるワーケーションについて、日本で展開されている事例を海外にいち早く示したことに意義がある。今後はデジタル田園都市国家構想など地域の活性化は重要な課題となっている。2023年以降、オフィスへの回帰、インバウンドの回復基調を見せるなかで、海外において注目されるデジタルノマドも視野に入れることが重要になってくる。本研究の社会的意義は、これらの動きに早く対応するための基本的視座を提供したことにあ

研究成果の概要（英文）：For rural areas, the greatest expectation for workcations is to address local social issues. By viewing local social issues as their own "responsibility to get involved," they can transform them into "resources" rather than social "issues. Goto City (Nagasaki Prefecture) and Tottori City (Tottori Prefecture) were shown as useful precedents for such a shift. On the other hand, one of the issues is how to connect to continuous commitment if it is an issue that will be resolved, or if deep commitment to an issue is required, expertise is required, and so on, and the scope of workcation is not broadened. Furthermore, the challenge is not only to connect diversified workcation practitioners to immigrate to the region but also to respect their individual styles.

研究分野：観光学、メディア論

キーワード：ワーケーション デジタルノマド ソーシャルイノベーション 地方創生 移住 ワークスタイル リモートワーク

1. 研究開始当初の背景

本研究は、仕事と休暇を融合させたワークスタイルであるワーケーションを研究対象とする。ワーケーションは、テレワーク・リモートワークなどと同様に、ICT およびモバイルメディアの進展にともなって発展した多様な働き方のひとつである。リゾート地などに1週間～1ヶ月単位で滞在し、仕事をしつつ休暇としても過ごすワークスタイルであり、同時にツーリズムの一種として捉えることができる。2015年前後から欧米を中心に注目されるようになり、日本では働き方改革の一環として、2017年にJALが導入したことで話題となった。また、2020年からはコロナ禍でのリモートワークの普及、落ち込んだ観光を活性化させるためのGoToトラベルを皮切りにワーケーションの認知は一気に高まった。

観光学においては、コンテンツツーリズムやガストロノミーツーリズム、ウェルネスツーリズムなどさまざまなツーリズムの形態について研究蓄積がされてきたものの、ワーケーションをツーリズムとして捉えたものは多くは見られない。しかし、日本においても和歌山県をはじめ各地方自治体でワーケーションを推進する動きが出始めており、その実態解明、モデル化などが待たれる状況である。

ワーケーションにおける地域、企業、ワーカーの相互関係は、下図のとおりである。地域においてワーケーションを誘致・受け入れるためには、(1)仕事を行うための施設・設備、(2)地方自治体やNPOなど推進主体、(3)観光資源が必要になる。とりわけ都市部に対置される地域においては、ワーケーションを実施する企業、ワーカーの期待に対して、既存の観光資源の活用や新たな観光資源の開拓・開発が課題となっている。この課題を解決するためには、ワーケーションで求められる要素が従来のツーリズムと異なることを踏まえて検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ワーケーションにおける地域、企業、ワーカーの相互作用に着目し、特に必要とされる観光資源について、それらはどのようなもので、どのように開拓・開発されるべきか、を観光学の視点から検討し、柔軟なワークスタイル、ツーリズムとして新たに普及しつつあるワーケーションを有効に機能させるために必要な要素は何かを探ることにある。

3. 研究の方法

本研究では(1)国内調査での実態解明による類型化・モデル化、(2)国際比較による検証、(3)アクターネットワーク論を参照した理論的枠組みの構築、を行った。(1)について、調査対象地として、全国に先駆けて自治体が主導するワーケーションの実践地域である和歌山県白浜町(和歌山県情報政策課)そして阿寒湖などひがし北海道、鳥取県鳥取市・米子市、長崎県五島市などでフィールドワークを行った。まずワーケーションが実践されるコワーキングスペース、観光行動が行われる現場での参与観察と聞き取り調査などのフィールドワークを行い、加えて地域の観光産業・観光政策関係者、企業にも聞き取り調査を実施し、ワーケーションの実態を明らかにすることで、地域・企業・ワーカーの相互作用の観点から類型化・モデル化した。(2)について、ワーケーションの先行実践地域としてバリ島の関係者へのオンラインインタビュー、また2023年

にはポルトガル・マデイラ島でもフィールドワークを行い国際比較による、モデルの一般化を行った。(3)について、ヒト・モノ・コトを含めたネットワークとして全体を捉えるアクターネットワーク理論やマルチスピーシーズ人類学を援用して理論的枠組みを構築し、フィールドワークによるデータ分析と合わせることで、ワーケーションにおける観光資源が果たす機能と、求められる要素を明らかにした。

4 . 研究成果

本研究の成果について、2021 年度には単著『ワークスタイル・アフターコロナ』(イースト・プレス)、書籍のチャプターとして「Reconfiguring Workplaces in Urban and Rural Areas: A Case Study of Shibuya and Shirahama, Japan」「Workation and the Doubling of Time and Place」「Workations and Their Impact on the Local Area in Japan」などにまとめることができた。これらの成果を踏まえて、2022 年度には『ワーケーション企画入門』(学芸出版社)、「How the Japanese workcation embraces digital nomadic work style employees」(World Leisure Journal 収録)など複数の書籍・論文にまとめられた。

また WAJ(ワーケーション自治体 協議会)、鳥取県、五島市、ひがし北海道をはじめ各地域でワーケーションについての報告・講演、また新聞・テレビなどのメディアにおいても研究成果を積極的に展開し、広く社会に還元することができた。以上のように英語・日本語での発信、また企業や地域でのワークショップや講演なども実施できたことで社会的インパクトも大きい研究になったと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松下慶太	4. 巻 164
2. 論文標題 ワーケーションの実態と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 調査月報	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下慶太	4. 巻 64
2. 論文標題 ワーケーションと「関係人口」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自治研	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下慶太	4. 巻 355
2. 論文標題 ワークプレイス化する郊外 ベッドタウンからベースタウンへ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下慶太	4. 巻 36
2. 論文標題 ワークスタイル・ライフスタイルの柔軟化によって都市が求められるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市とガバナンス	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita Keita	4. 巻 1
2. 論文標題 Reconfiguring Workplaces in Urban and Rural Areas: A Case Study of Shibuya and Shirahama, Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Topologies of Digital Work: How Digitalisation and Virtualisation Shape Working Spaces and Places	6. 最初と最後の頁 149 ~ 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-80327-8_7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita Keita	4. 巻 1
2. 論文標題 Workation and the Doubling of Time and Place	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Second Offline Doubling of Time and Place	6. 最初と最後の頁 105 ~ 120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-16-2425-4_7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsushita Keita	4. 巻 -
2. 論文標題 Workations and Their Impact on the Local Area in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Flexible Workplace	6. 最初と最後の頁 215 ~ 229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-62167-4_12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsushita Keita	4. 巻 65
2. 論文標題 How the Japanese workcation embraces digital nomadic work style employees	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 World Leisure Journal	6. 最初と最後の頁 218-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/16078055.2022.2156594	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Keita Matsushita
2. 発表標題 "Community of Styles" Among Young Workers and Regional Migrants in Local Areas in Japan"
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 松下 慶太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 224
3. 書名 ワーケーション企画入門 選ばれる地域になるための受け入れノウハウ	

1. 著者名 富田英典、ジェームズ・E・カッツ、ミカエル・ビョルン、木暮祐一、伊藤耕太、吉田達、岡田朋之、松下慶太、ラリッサ・ヒョース/イングリッド・リチャードソン、藤本憲一、松田美佐、上松恵理子、金キョンファ、劉雪雁、ジェイソン・ファーマン、天笠邦一、羽瀨一代、小笠原盛浩	4. 発行年 2022年
2. 出版社 恒星社厚生閣	5. 総ページ数 398
3. 書名 セカンドオフラインの世界	

1. 著者名 松下慶太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 イースト・プレス	5. 総ページ数 240
3. 書名 ワークスタイル・アフターコロナ	

1. 著者名 松下 慶太	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 モバイルメディア時代の働き方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------